

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書


- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 田村市立船引学校 】

1 実践テーマ	① ・ II ・ ③ ・ IV ・ ⑤ (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	対象学年：2学年4クラス122人 計122人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ①教科名 (保健体育科) ③その他 (総合的な学習の時間)
4 目標 (ねらい)	目標 (ねらい) ・ オリンピアンとの講演を通して、その生き方や考え方に触れ、国際社会に貢献し、福島、そして日本のさらなる発展を目指す態度を育てる。 ・ シットイングバレーを体験することにより、障がい者の活動についての理解を深め、支え合う心をはぐくむバリアフリー精神の意義について学ぶ。
5 取組内容	I アンケートの実施 事前と事後にアンケートを実施し、生徒たちの心の変容を確かめ、オリンピックやパラリンピックへの興味・関心、バリアフリー精神の構築の大切さを確認した。 II オリンピック・パラリンピック選手の講演会 1 陸上競技選手を迎えての講演会 (オンライン) 右代 啓祐氏を迎え、「夢に向かって」の演題で講演会を実施した。講演会では、自分の夢を人に伝えることで、自分を応援してくれる人が増える。その結果、夢の実現に近づくことや自己アピールの大切さを学んだ。



	<p>2 シットイングバレー体験学習</p> <p>2年生の体育理論の時間にある「人々を結びつけるスポーツの文化的働き」の授業を通して、スポーツは、障がいの有無を越えて人々が結びつくことにつながるということを学ぶとともにシットイングバレー・ブラインドマラソン体験活動を通して、パラリンピック種目に親しんだ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>
<p>6 主な成果</p>	<p>I 講演会から学んだこと。</p> <p>1 生徒アンケートの感想から</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピアン体験談を通して、オリンピックに参加できる人は、特別な人ではなく、高い目的意識を持ち、こつこつとひたむきに努力したり活動したりすることで、自分を奮い立たせる術を身に付けることが大切であることを学ぶことができた。 ○ 「自分で決めたことぐらいは頑張る」という言葉が、毎日努力を重ねて頑張っている右代選手の言葉だったので、心に残った。そして、夢を叶えるのは「自分次第」ということを強く感じました。 <p>2 講演会を実施して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピアン講演会を実施することで、オリンピック・パラリンピックへの関心が高まり、学校生活や部活動への取り組む意識が今まで以上に高まった。 ○ 保健体育の授業で行う体育理論では、オリンピック・パラリンピックの歴史や文化的意義などに興味を示し、今まで以上に学習意欲が高まった。 <p>3 シットイングバレー体験活動を通して</p> <p>シットイングバレーの体験授業では、ルールやマナーを学ぶだけでなく、模擬体験を行う活動を実施し、障がい者の視点に立つ活動を行い、互いに支え合うことの大切さを体験した。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>学校教育全体を通して、今回のオリンピック・パラリンピック事業との関連をどう位置づけるかを重視して計画した。また、オリンピックの講演会を実施することで、考え方をじっくりと共有し、自分のこととしてとらえられるように配慮した。</p>

<p>8 主な課題等</p>	<p>I 今後の事業継続について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東京オリンピック・パラリンピックの理念を踏まえ、実施年度後も無理なく、継続していけるように教育活動のどこに位置づけるか考えていきたい。 ○ 大会までの期間、選手をどのように応援するかを考えさせ、計画的な実践活動が図れるように検討していきたい。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>I 今後の取組について</p> <p>年度末の教育課程編成時に、今後の取り組み方を提案し、各教科、領域などとの関わり方を検討していきたい。また、特別支援学校と連携が図れるような実施計画を立てて、学んだ成果が実践できる環境を整備していきたい。</p>